

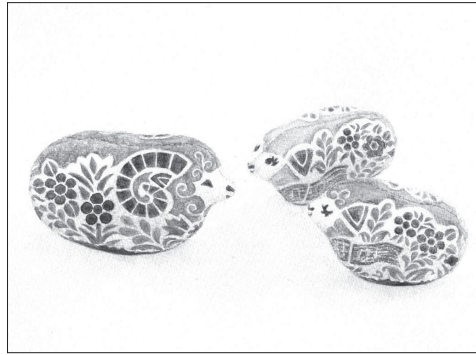
高山の文化

No.160 2015.1.1 Culture in Takayama

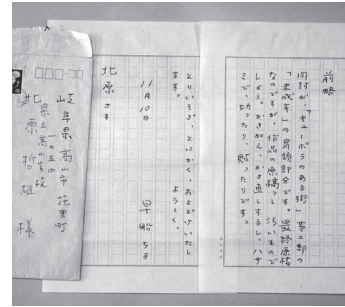
一般社団法人 高山市文化協会発行

高山市昭和町1丁目 高山市民文化会館内 Tel.34-6550 Fax.34-6877

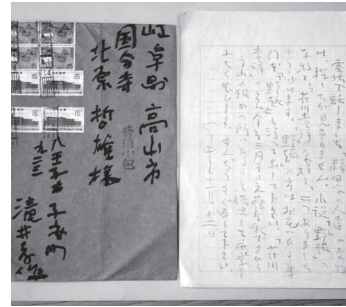
メールアドレス●mail@takayama-bunka.org
ホームページアドレス●http://www.takayama-bunka.org
(文化会館の催し物案内はこのホームページをご覧ください。)



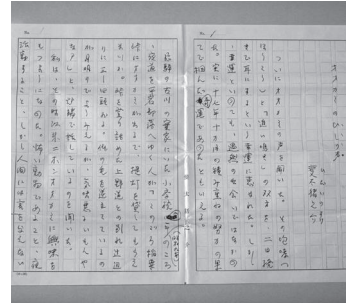
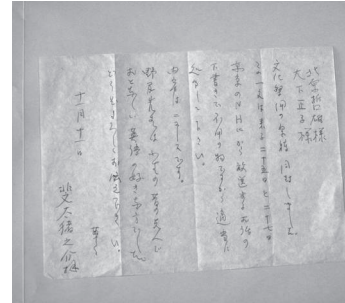
「未」 北平 真由美



早船 ちよ



瀧井 孝作



斐太猪之介

飛騨高山高校より郷土出身作家の 直筆手紙などを寄贈

昭和四十二年、県立高山高等学校（現・飛騨高山高等学校）で創立五十周年記念行事として、文化祭において作家の原稿展が開催されました。

その際に郷土出身作家の原稿借用のやりとりをかわした作者直筆の手紙等が、学校で所蔵・保管されてきました。これらの手紙を保存・活用するため、平成二十六年十二月に飛騨高山高等学校より当協会に寄贈いただきました。

寄贈いただいた原稿は、近代文学館にて保管し、展示会などで活用させていただきます。

- ・瀧井 孝作 直筆手紙一通
- ・早船 ちよ 直筆手紙一通
- ・斐太猪之介 直筆手紙一通

文化功労者を顕彰

永年に亘り、郷土の文化振興とその発展に寄与された方を顕彰します。表彰式は、1月1日開催の新年市民互礼会で行います。(敬称略・順不同)

文化功労者



菅田 一衛 (国府町瓜巢)

歴史・民俗学

永年に亘り、歴史・民俗・考古学の探求・研究を行い、多数の著書・論文を執筆された功績。



川上 岩男 (上宝町本郷)

歴史・民俗学

永年に亘り、上宝を中心とした民俗・歴史研究、特に播磨上人の研究につとめ、多数の著書を執筆された功績。



山仲 巻虚 (崇) (江名子町)

尺八

永年に亘り、尺八道を通じて高山市の文化振興に寄与され、後進の指導に貢献された功績。



住 斉 (下三之町)

人類学

永年に亘り、DNA解析による飛騨びとのルーツを探索、その結果により飛騨の歴史の未明部分を解明し、多数の論文を執筆された功績。

永年功労者



小瀬 勝亮



殿垣 幸子



加藤 妙子



小林 伸子



京極 範子



澤木 正子

今年も一般社団法人高山市文化協会は、新しい文化の創造と伝統文化の継承」を念頭に、市民の皆様が理解が得られる持続可能な文化活動に取り組んでまいります。皆様方のご理解とご協力をお願いしまして、年頭のごあいさついたします。

新年、明けましておめでとうございます。皆様には初春をお迎えのこと、心からお喜び申し上げます。

こうした社会の情勢が、人々の心の支えとなる文化事業に少なからず影響していることは、誠に残念でなりません。そのような時機、高山市が基本政策の柱を「経済・環境・文化」と位置付け、文化振興を重点施策とされたことは、市民の文化活動を支える上で大きな力となりました。

その新文化会館建設計画を前進させるためには、建物を建築されるのは高山市ですが、利用し活用する私たち市民と各種団体の理解と協力が重要です。当協会は、新文化



(一社) 高山市文化協会
会長 小林 浩

年頭のあいさつ 新文化会館建設に向けて

高山市民文化会館を改築する等の新文化会館の建設計画を盛り込んで下さるよう、高山市へ要望してまいりました。これに対し、市が前向きな対応をしてくださるとのことです、大変意を強くした次第であります。

現在、高山駅を中心とした駅周辺整備事業が着々と進行しています。これからの駅西地区は、今まで以上に人々の交流が盛んになり、その拠点となる新文化会館の役割は一層重要になってくるものと信じています。

また昨年、自然環境の保護できて「身近な自然を体験できる学べる森」を造ることを提案しましたが、具体的な事業には結びつきませんでした。そこで当協会の事業として何をすべきか、現状はどうか、将来私たちの生活環境はどうあるべきかについて、有識者の意見を聴くなど、実現に向けたよりよい方向を見出したいと考えています。

高山市文化芸術鑑賞事業

○主催 高山市・(一社)高山市文化協会 ○お問い合わせ (一社)高山市文化協会 (tel.0577-34-6550) mail@takayama-bunka.org

<笑福亭鶴光>

笑福亭鶴光(つるこ)は上方落語の名跡であり、当代は二代目。ラジオパーソナリティやテレビ出演で人気を得る。特に「オールナイトニッポン」でのパーソナリティは11年9か月に及び、歯に衣着せぬトークで関西芸人が東京で活躍するきっかけを作る。江戸と上方落語の架け橋として活躍しており、現在、東京の寄席でトリを取る資格を持つ上方落語家は鶴光のみである。

桂 文治

<桂文治>

桂文治(ぶんじ)は江戸落語の名跡であり名跡であり、当代は十一代目。桂文治の名跡は、東西落語界を含めた桂一門の宗家でもある。文治は、二代目までが上方、三代目と四代目は上方と江戸にそれぞれ居て、五代目以降は江戸に戻るが七代目はまた上方に行きと、東西で歴代大看板となった珍しい名跡。平成24年に桂平治を改め文治を襲名した。

平成27年

2/26 木

午後7時開演
午後6時30分開場

丹生川文化ホール

高山市丹生川町町方

チケット料金(税込) 【一般】2,500円

【メセナメイト会員】2,000円

【ジュニア(18才以下)】500円

プレイガイド

高山市民文化会館 tel.0577-33-8333

丹生川文化ホール tel.0577-78-2468

http://www.takayama-bunka.org

<サンドウィッチマン>

2007年のM-1グランプリ王者。コンビ名は街頭に立つサンドウィッチマンに由来。元はトリオでガリガリのメンバーが間に入っていたため、サンドウィッチのようだという事で命名した。芸風は主にコントだが、動き・小道具よりもしゃべくりにより笑いをとるものが多いため、漫才に作り変えて披露するネタも多い。M-1グランプリの際のネタも、元はコントのネタであった。自称「漫コソ師」。

チケット
好評販売中